

テーマ：観光（実践校）

十勝管内 豊頃町立大津小学校

本実践のポイント（概要）

- ・ふるさとに対する愛着や誇りを育むため、総合的な学習の時間における「浜っ子タイム」の学習において、漁業や食育、地域の自然等を活用した体験活動を通して、地域資源の活用方法について探究的に学習しました。

ふるさと教育・観光教育の実践内容

単元の目標

児童が個別に設定した学習課題の調査活動及び外部講師を招聘した体験的な学習を通して、養殖漁業や地産地消、地域の自然について理解を深め、地域資源の活用方法について具体的に考えるとともに、発信するなどの行動に移し、ふるさとに対する愛着や誇りを高めることができる。

取組の様子

(1) 課題の設定

漁業体験学習、食育学習、地域自然学習等、地域資源や人材を活用した体験活動や講話を通して、地域の産業や資源について児童の興味・関心を喚起し、養殖漁業や地産地消の取組、地域の自然について探究する課題を設定しました。

(2) 情報の収集

JA豊頃、ジビエ食品の生産・販売と宿泊施設を運営する「エレゾ社」、一般社団法人「ココロコ」の職員を講師に、食についての講話を基に、児童が調べたいことについて情報を収集しました。

(3) 整理・分析

1人1台端末を活用して、地域の産業や観光資源について収集した情報を、整理するとともに、内容について、児童同士で意見を交流し、地域の特色について理解を深めました。

(4) まとめ・表現

第6学年では、漁業について学んだことを、1人1台端末を活用してレポートを作成し、授業参観に来た他校の先生方に対して、スライドを用いて発表するとともに、第3・4学年では鮭の稚魚の放流や地引き網体験を通して、学んだことをグループで模造紙にまとめ、新たな課題や問いを見いだしました。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る指導の工夫

- ・児童が個別に設定した学習課題に基づいて学習を進められるよう、学習課題の設定の場面において、探究の学習過程を共有し、解決へ向けた見通しをもつ時間を設定しました。
- ・1人1台端末を活用し、収集した情報を整理し、分かったことをまとめたり、交流の場面でもらった友だちの意見をもとに、発表レポートの改善につなげたりしました。



【食についての講話の様子】



【レポートを発表している様子】

実践の振り返り

- ・地域の産業である漁業や地産地消の取組について、探究的に学習を進めたことにより、産業など地域のことを一層理解するとともに、ふるさとに対する愛着や誇りを育てることができました。
- ・地域の人的、物的資源を活用し、地域の資源を生かした指導計画を工夫・改善することにより、ふるさとに対する愛着や誇りを育み、地域の将来を担う人材を育成することが期待できます。